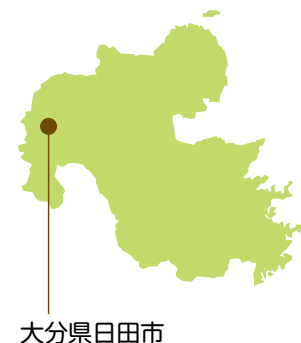


# 有限会社本川牧場

※2018年3月現在

代表者名	本川 和幸	資本金	10 百万円
設立年	1979 年 6 月 19 日	売上高	3,188 百万円 (2017 年 3 月期)
事業内容	生産 (生乳、和牛、F <sub>1</sub> )	経営規模	田 1ha、畑 5ha、採草放牧地 150 ha、生産施設 7,000m <sup>2</sup> 、経産牛 2,200 頭、その他 (育成牛 1,300 頭、肉牛子牛 400 頭)
従事者数	84 人 (うち女性 32 人。女性内訳: 役員 2 人、一般職 24 人、常勤パート 6 人)		
女性活躍支援	[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援] 産前産後休業、育児休業 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係 (屋内・野外トイレ・シャワー)、重労働等の業務改善		



## 経営概況

本川牧場は、1955年に日田盆地内で酪農を始め、1975年に市の農業構造改善事業により盆地を囲む中山間地に移転。4年後に有限会社として法人化した。

その後、少しずつ規模を拡大しつつ、1987年に飼料製造販売の株式会社ホンカワをグループ企業として設立。地域内の産業連携も視野に、地元醸造所の麦焼酎粕などをいち早く飼料原料に取り入れたほか、牛ふん堆肥を使用したアスパラガス、白ネギ栽培の循環型農業を展開。また“林業の町”日田の強みを活かし、木材のおがくずをふ

んだんに用いたフリーバーン式牛舎を採用し、牛のストレスを極力抑える飼育を行っている。

育成牛を含めた乳牛の飼養頭数は3,200頭で、そのうち経産牛は約2,200頭。同時に50頭を搾乳できるロータリーパーラーを備え、24時間体制で1日3回の搾乳を行う。日産の乳量は50tにのぼり、全国屈指の規模である。

## 1. 経営者の理念・意識改革

社長の本川和幸氏は、獣医師として長野県で勤務したのち入社。2010年ごろから実質的に経営を担ってきた。同社の経営理念は「自然や地域との共生」で、本川社長はこの理念に加え「牛にやさしい」経営を目指している。この理念に基づき、ストレスを抑えた飼育環境づくり、技術の向上などで歩留まりを上げる経営改善に2012年から取り組み、売上高の増加に成功している。

具体的には、現場でのきめ細かな作業と観察を心がけ、円滑な情報共有に力を入れた結果、子牛の罹病率が下がり、繁殖もよりの確に行われるようになったという。また、ストレスを抑えた環境で平均出産回数を改善し母牛を長く大切に飼うこ



とも、飼養頭数を増やさずに生産量を伸ばす結果につながっている。

この経営改善の過程で、有能な人材の採用および登用を進めてきた。2015年、元銀行員の大脇建氏を人事部長として迎え、今年から人事査定と能力による昇給などに取り組むとともに、後継者は社員から育てるとの意識のもと「農家から企業へ」を掲げている。

## 2. 女性の採用と登用

2010年より新規採用枠を広げ、全国から人材を求めたところ、結果的に女性の採用率が高くなった。20代の社員はとくに女性が多く、2017年の新卒社員も8人中6人が女性だった。いずれも畜産系の大学や大学院、動物専門学校卒業者など、専門性の高い人材だ。生産部門で働く女性も2010年の11人から21人に増え、現在45%を占めている。

生産部門でとくに女性従業員の比率が多いのは、子牛の世話をする哺乳育成課で、正社員10人中7人が女性。2人のパート社員も女性である。この女性従業員たちは高いコミュニケーション能力を発揮し、牛の状態について情報の交換と共有がスムーズだという。また、体力が弱い子牛の世話においては女性従業員の細やかな観察眼が効果をあげ、病気の予防や早期発見につながっているという。

一方、経産牛の飼育全般を担当する乳牛管理課にも、一昨年初めて女性社員が配置された。経産牛の世話においても、きめ細かな目配りや丁寧な作業が牛の健康の維持、ストレスの抑制などにつながり、乳牛管理課の女性社員は11人中4人にまで増えている。

また、牛を妊娠させる繁殖課でも、課長の下で班長のポストに26歳の女性が登用されている。繁殖課の仕事の半分はデータ処理と分析で、2,000頭以上の牛のデータをもとに、的確な繁

殖を実現させるには高い情報処理能力が求められる。女性社員の登用は、その能力が評価されてのことだという。

## 3. 女性が働きやすい環境の整備

生産部門への女性の配置に伴い、女性用トイレと快適な休憩室を整備した。また、機械類は操作しやすいオートマチック式に順次切り替えているという。哺乳育成課では、女性社員が増えたことを配慮し、哺乳器具や子牛のミルクの運搬を重い台車からフォークリフトに切り替えた。その他、洗浄水を水からお湯にしたり、器具を取り出しやすいよう棚を設置するなど、性別を問わず作業がしやすい環境が整えられてきている。

専門性の高い新規採用者が増えたことで全国から人材が集まり、寮や借り上げ社宅の整備も行われた。会社の敷地内の社員寮は男女別棟で、キッチンと分離型のバストイレ付きの全個室タイプとなっている。

産休・育休制度は、最初の取得者が間もなく復帰予定で、2人目が2017年11月から取得中である。職場復帰の最初の事例は今後の女性社員の働き方に影響するため、子供の急病による休みの取り方も含め、「よい前例」となるよう慎重に対応していきたいという。

### 審査委員の声

広大な牧場で多くの女性が、哺育、繁殖、獣医師、データ管理事務など、それぞれの得意分野を活かして働いている。組織が大きくなると、どんな分野の仕事であっても、男性・女性それぞれの特性を活かし補完し合っただと視察を通して気づかされた。これがうまく機能する体制を整備するのが大規模経営の経営者の仕事であり、本川牧場は今まさにこれに取り組んでいる。